

令和6年度第1回さぬき市地域公共交通会議 会議結果

- 1 会議日時 令6年6月7日（金）10：00～12：00
- 2 会議場所 さぬき市役所3階301・302会議室
- 3 出席者〔委員〕宮崎会長、久保委員、梶原委員、井上委員、小倉委員、白山委員、元山委員、山本委員、淵田委員（代理）、溝渕委員、芦谷委員、上野委員、大久保委員、木村委員、佐々木委員、中川委員、末次委員、鈴木委員、十川委員（代理）、藤平委員、藤本委員、間嶋委員、三宅委員

〔事務局〕都市整備課：安倍課長、津村課長補佐、脇谷係長、福井主査
ランドブレイン株式会社2人

〔傍聴人〕1人

- 4 議題（1）令和5年度の実績及びデマンドタクシー利用促進活動について
（2）コミュニティバスの再編スケジュール等について
- 5 資料 資料1 評価指標の進捗状況一覧
資料2 令和5年度第3回さぬき市地域公共交通会議以降のデマンドタクシー実験運行について（経過報告）
資料3 コミュニティバスの再編スケジュール等について

6 会議要旨

1 開会

2 会長挨拶

3 議事

（1）令和5年度の実績及びデマンドタクシー利用促進活動について（報告）

会長：それでは、議題1「令和5年度の実績及びデマンドタクシー利用促進活動について（報告）」にうつります。こちらは前回会議を踏まえた報告案件になりますので、事務局は報告できなかった内容を中心をお願いします。

事務局：＜説明＞ ※資料1・2 参考資料：みんなで推し活スタンプラリーチラシ

会長：ありがとうございました。皆さまから何かご意見ご質問ございますでしょうか。

委員：前回の会議より一番最初の便の予約時間を5月から変更したという事で、資料2のP5の11時台の予約の受付件数が14件で22%は下の表で書いてあるので分か

るのですが、予約成立件数の29件はどこをみたら分かるのかお伺いしてよろしいですか。

事務局：申し訳ございません。予約成立件数はこのグラフでは読み取れません。と言いますのも、デマンドタクシーの予約成立件数は、別のExcelシートに個人情報などとともに一覧としてまとめているので、スペースの関係上、紹介したい、必要な数値だけを抜粋させていただいております。

委員：受付件数より成立件数が多いのはどうしてですか。

事務局：(代表者が予約し)複数人数でご利用いただいた、というのが一番の理由です。

委員：ありがとうございます。5月から予約の仕方を柔軟に変更したことで実際にP7にあるように利用者数が増えたのか、それとも(12月の開始から日が経ち)認知度が高まり利用者が増えたのかまでの判断はできないですが、増加傾向にあるということはいい傾向であると思いました。今後、(デマンドタクシーを)継続するのかどうかの議論はありますが、公共交通全体においてどういう観点で向き合うのか。日常の足として捉えるのであれば、頻繁にルートが変わるのは受け入れにくいし順応しにくい面があると思えます。意見を聞いて柔軟に対応していくのはいい面もありますが、定着させていくにおいては悪い面もある気がするので、固定化するまでは周知徹底して溶け込むまで頑張らないといけないと感じたところです。P8のデマンドの緑色のグラフが下回っているということですが、コミバス定時定路線は日常に根付かせやすいですが、デマンドタクシーの目的は日常の突発的な場合であるとか、バスに無かったメリットであるので、どちらも必要であると考えられると思えます。そういった面から、継続するのか、廃止するのかを検討していくべきかと思いました。

会長：ご意見をありがとうございます。ご指摘のとおり、単純に利用が多い少ないではなく、どういう意図でデマンドタクシーを利用しているのか意識する必要があります。コミュニティバスの利用者がデマンドに移ったのか、新規なのかが大きなポイントになりますし、P8で見れば、3・4月の午後に数字だけ見ると昨年より減っていて「えっ」と驚きますが、利用実態のグラフ化は難しいと思えます。どういう人が利用しているかを、ドライバーに聞き取りしながら把握していければと思います。

委員：徳島文理大学ですが、本学を走るデマンド便は、(JR四国のダイヤ改正に合わせて)3月から、4便から3便へ少なくなりましたが、昨年度の午後のコミバス利用者数に比べて増えたということでは無いと思っています。なぜ増えたかという点、授業終わりに乗れてJRの出発便に間に合うという、目的がはっきりして利用者が増えたと考えているところです。この経験を踏まえると、秋口に(デマンドタクシーの継続等について)判断をする際には、目的がはっきりしたところで運行する、例えば病院から駅までとか、時間帯を考えて運行するようなアイデアを含めて検討されたら、公共交通の継続に繋がるのかなと思います。

会長：ご意見ありがとうございます。四国全域で住民アンケートを取った時、鉄道の駅までどのようにアクセスをしていますか、については徒歩が多いようです。次は車になり、自家用車で行ったり駅まで送り迎えをしてもらったりしていて、四国全域をざっくりと見るとそのような傾向にあります。鉄道の駅との連動を考えて、ダイヤに合わせた乗継ができるようにする事で、利用促進の可能性があると考えられます。以前にJRとコミュニティバスの連携の取組がありまして、乗継をされている人が多かったようですので、今後も意識されたらいいと思います。よろしいでしょうか。今後、デマンドタクシーの方向性について判断をするようになりますが、どういう風に考えるか難しい部分がありますので、こう思いますよ、とのご意見いただけると、事務局としても、住民に説明しやすく、皆さんの合意を得られるような取り組みに繋がれると思いますのでよろしくお願いいたします。

(2) コミュニティバスの再編スケジュール等について

会長：次の議題へ移りたいと思います。議題2「コミュニティバスの再編スケジュール等について」事務局は説明をお願いします。

事務局：＜説明＞※資料3 参考資料：さぬき市コミュニティバスの状況(H26～R5年度実績)

会長：ありがとうございます。ご意見を頂戴していくのですが、資料3について概要が多岐に渡ってくるのでパートに分けて議論したいと思います。まずは、「I令和5年度を振り返って」ですが、ご意見はございますでしょうか。P5の文理大学の

運行支援金の有無の資料は、運賃収支が変わらない前提の資料でありますことを注意しながら見ていただければと思います。

委員：(異議なし)

会長：「Ⅱ新公共交通網運行計画案作成に向けて」に移ります。P6～8でご意見ございますか。

委員：P8 ニーズ調査において、通学など必ず行く需要の起点と終点はある程度想定できますが、移動が便利だから頻度が変わる、便利になるからこそ発生する移動の需要みたいなものについては、ニーズ調査で聞く必要があると思います。次に、行くか行かないかのニーズを聞き、その後に、(公共交通に)乗るか乗らないか、交通手段の選択に関するニーズの2段階を踏まないといけないと思います。公共交通に乗るか乗らないかの判断に関しては、ダイヤの接続とかの利便性、発着場所の自宅からの移動の利便性、運賃のこと、待っている間の停留所の快適さなどになると思いますが、乗る乗らないをどういったところで判断しているのか、深く掘り下げて聞いていくと、これくらい便利にすると良いというのが分かってきて、計画案の作成に必要なものが得られるのかなと思います。ニーズ調査についてはこのような感想を持ちました。ご検討いただければと思います。

会長：的確なご意見をありがとうございます。ニーズ調査となりますと、利用したいかどうかというところを思いがちですが、ある1日の動きとして、家からどこに行くか、いつ動くか、を聞くのが大切になります。香川県ではしばらく調査していないですし、さぬき市においても詳しい調査はしていないようですから分からないのですが、コロナ前とコロナ後では実態が変わっているのではないかとの疑問もありますので、日頃どこに行っているかが分かれば良いと思います。私が関わっているところでいくと、坂出市のある地域で、移動実態の調査を去年の10月にしてもらいました。シンプルに、買い物はどこに行っていますか、病院はどこに行っていますか、遊びに行くのはどこですかなどで、その地域の人がどこに行っているのかが分かるとコミュニティバスのルートの根拠になるので、市民向け住民向けに調査をして、新たなネットワークをどうすれば良いのかに必要なデータを取ってもらえたらと思います。時間も無いと思いますので、急いでやってみましょう。よろしくお願いします。

委員：(異議なし)

会長：続いて、「Ⅲ関連する取組」についてP9・10でご意見ございますか。

委員：移動サービスをやってみたいと会長を招いて勉強をしたのが3年前位でしょうか。やまびこの風を発足して(移動サービスを)早くやりたいと思っていましたが、いろいろと地域の事情が変わって遅れ遅れになってはいますが、今年はマニュアルを作って進めていきたいと思っています。地域ボランティアの車をどうするかの問題がありましたが、地域内にある社会福祉法人が(車を)貸してくれるということで光が見えてきました。貸してもらえると保険をどうするかを話さないといけません、上手くいくと思っています。この取組みをやりながら思ったのが、自分たちだけで考えてやってしまうと社会のルールを逸脱してしまう可能性がある、社会福祉協議会や都市整備課、新たに長寿介護課からも協力を得て、アドバイスをいただき、相談しながら決めていきたいと思っています。ただ、(移動サービスの)仕組みを作ったからといって、利用する人が急に増えるとは思っていません。仕組みを作っておけば、必要な時にすぐに使えるようになるので、今年1年かけて(仕組みづくりを)やっていけたらと思います。今後いろいろ教えてください。

会長：地域の状況も刻々と変わり、高齢の方が多くなり、一刻も早くやらないといけない案件かと思えます。地域がやりたいことをサポートするのがこの地域公共交通会議の役割でもありますので、適切に進めていただけたらと思います。

委員：ボランティア輸送など公共交通とは別の、住民の足になるようなもので考えがちなのは、公共交通とボランティア輸送でしっかり棲み分けしようとして、ボランティア輸送をしている地域は公共交通を入れなくても何とかなるだろうと考えられてしまうことです。地域でやろうと思って行き詰ってしまった時に、公共交通の空白地帯になってしまうので、そのエリアの役割や目的の違い、連携を考えながらマニュアルを考えて行けばいいのかなと思いました。

会長：地域でやりたいと声が上がるところは、そもそもタクシーサービス等が不十分であって、不便さの解消のためこういった話が出てきます。ネックになってくるのが、タクシー事業者との調整であり、タクシーの利用が無くなってしまいうという不安があります。ボランティア輸送がどうかというと、タクシー事業者では対応

できないので、やむを得ないというところです。昨今は新たな移動サービスが出てきて、タクシー事業者が運行しているケースもありますが、今のタクシーサービスを使っている人と、新たな移動サービスを使っている人は全然違っていますので、時と場合とで使い分ける意識を持ってもらうことが、重要なポイントになってくると思います。香川県内で車から公共交通への流れがあった時代はありましたが、私もですがこの会議など出席に間に合わせるために車で来ています。ずっと車でいいかというところではなく、公共交通と車などが選べる地域になっていくと、柔軟なエリアになってくると思います。若い人でも車を持たない選択をしている人が、車を持たなくても仕事をしながら生活ができる基盤を作っておくのが良いと思います。若い人の中で車を持たない選択をする人がいるという発想を持つことが重要ですので、状況を見ながら対応できればと思いますが、さぬき市は無理だということになるかも知れませんが、どうすれば上手くいくかを考えることが大事であると思いますのでよろしくお願いします。P10のロードマップ案の取りまとめに関する経緯と内容ですが、実際に公共交通を利用しているのは車を持っていない中・高校生と大学生、後期高齢者になります。今の後期高齢者世代が昔から公共交通を使っている層になっています。今、車を使っている人が後期高齢者になっても、車がある内は公共交通を使うことはまずありません。足腰が弱って歩けなくなった時には公共交通を使えず、結局公共交通を使えるのは若い人だけとなってしまいます。車を使いつつ、公共交通も使える状態を作れるよう考えなければいけません。私の祖母は公共交通を使っていましたが、バスを降りる時に若者とぶつかって骨折してしまい、寝たきりになりました。高齢者は公共交通を使うと歩くので、足腰が丈夫になりますが、転倒して骨折してしまつたら外出できなくなってしまうので、どうやって健康寿命を延ばすのかも含めて考えて、P10の議論を整理していけたらと思います。皆さんご意見ございますか。

委員：(ボランティア輸送については、)南川のやまびこの風の皆さんとは3年ほど検討を重ねてきましたが、民間の交通事業者さんとの兼ね合いを考えながら、行政として何ができるのか十分に考えて協議を重ね、良い方向に進めたらと思いますのでよろしくお願ひいたします。

会長：他に何かございますか。交通事業者からのご意見はいかがでしょうか。

委員：ボランティア輸送に関してですが、タクシー事業者ではありますが、隔々まで運行していくというのは難しいです。そういった部分も考えながら、皆さまと協議して運行していけたらと考えております。

会長：いろいろなものを組み合わせながら、移動サービスをどうにかしていこうという発想で取り組んでいけたらと思います。ありがとうございます。

委員：1 つだけお願いになります。新しい運行計画が策定されるということで、視点の1つとして市内で移動がしやすい地域になることと、地域外へも移動しやすいという交通体系を考えていただけたらと思います。コミュニティバスを使って市内は勿論、市外へも移動しやすいことで、より住みやすい町になると思いますので、市内に加えて市外への移動も重視したような考えで、是非、計画の策定をお願いできたらと思います。

会長：市内から市外に出るとなると、他に吸い取られるイメージがありますが、逆に考えると市外の方が市内に入って来やすいということで、賛否両論な意見があり難しいところではありますが、鉄道のダイヤに合わせることでにより利用が増えるなど、移動しやすい状況を考えたらいいと思います。

委員：(異議なし)

会長：最後に、「IV令和6年度のスケジュール(案)」についてですが、別紙のスケジュール(案)で進めていくということでご意見等ございませんか。これから調査をされていくということであり、スケジュール通りにいけば、年度内には取りまとめていく予定であると思います。展開は早くなっていくと思いますが、今後も皆さまからのご意見をいただきながら検討していければと思います。よろしいでしょうか。

委員：(異議なし)

会長：それでは本日の議事を終了します。

4 その他

(1) ミニ学習会「日本版ライドシェアについて」

(2) 事務連絡

5 閉会